令和４年度　第１回学校運営協議会
（兼　高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業地域連携組織）
議　　事　　録

日時　令和４年５月２４日（火）13：30～16：00
場所　岡山県立勝間田高等学校記念館３階会議室
（委員 15 名のうち、11 名が出席。１名リモート参加）

１　校長挨拶（任命書交付）
　〇委員を依頼するにあたっての根拠
　〇県立高等学校体制整備計画
　〇令和４年度各系列（コース）在籍数
　〇令和４年度学校経営計画書
２　出席者紹介
３（１）岡山県立学校における学校運営協議会の設置について
　　〇岡山県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則
　　〇岡山県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱
　　〇コミュニティ・スクール図説
（２）岡山県立勝間田高等学校における運営協議会について
４　会長選出
５　会長挨拶
　我々には責務があるので、勝間田高校が地域に必要とされるよりよい学校となるよう、委員のみなさんがそれぞれの分野で力添えいただき、御協力をお願いしたい。
６　本校の現状と課題
（１）令和３年度の教育活動について
（２）令和３年度学校評価書について
（３）令和４年度学校経営計画等について
（４）令和４年度の主な行事について
　〇修学旅行
　　期日：令和４年１０月１２日（水）～１４日（金）の２泊３日
　　場所：東京方面（東京ディズニーリゾート・都内自由行動等）
　〇清風祭
　　体育の部：令和４年　６月１０日（金）半日開催（非公開）
　　文化の部：令和４年１１月１９日（土）

７　質疑・応答

　特になし

８　意見交換

【議長】

これからの勝間田高校の教育活動について御意見や御提案をいただきたい。また、昨年度の第３回の当会で「それぞれのコース（系列）において、どのような学びがあるとよいか、令和４年度の第１回で意見をいただきたい。」とお伝えした。そういったことも踏まえて御意見をいただきたい。

【委員 A】

新しいコース（系列）を作る話はどうなったのか。

【高校】

進捗状況について説明すると、学校の強み・教育施設を活かして、どのようなコースを設置すべきか話し合ってきたが、４月中旬に今までどおりのコース（系列）でいかせてほしいとの職員からの声があり、(新しいコースは作らず) 今までどおりの５コース（系列）でいくことに決定した。ただ、内容や科目・教育活動は０ベースで考える。現在各コースで考えているところである。本日この協議会でアイデアや意見をいただきたい。

【議長】

５つの系列でいくことが決まっている。御意見をいただきたい。

【委員 B】

TV 放送の「情熱大陸」でも取り上げられた樹木医やアーボリストは保護者の関心も高いのでは。このようなメジャーな人に授業や話をしてもらうのもいいのでは。目玉も必要。県南でも（学校説明会などを）開催して、県南の生徒にも勝間田高校を知ってもらえれば。

前回の本会でも話にあった教員数減については、勝央町の地域おこし協力隊に対応できる人を入れて、一緒に授業を行ってもらうのもいいのでは。

【委員 C】

今まであるものも大切にしていくことは重要。子どもたちが夢を持つコース名や中学生が魅力に感じる内容もあるとよい。今やっている教育活動をＳＮＳなどを使って発信し、中学生たちに勝間田高校の存在を知らせることが重要。スクールミーティングでは生徒が主体的に前向きに考えている。「行ってよかった学校」と在校生・卒業生が PR していければ。あいさつもできている。地域からも（勝間田高校のイメージの）見直しが必要。

【委員 D】

実践して身に付けることが大切。今、６次産業化がブームである。生徒たちも、地元のものや自分たちが育てたものを加工して商品を作り名前を考え原価計算して売る、といった一連を体験するのもよいのでは。また、食品コースとビジネスコースが協同で授

業を行うなど、多様なコースがある強みを生かしていくのがよいのでは。
【委員 E】
コース別在籍数を見ると、年によって各コースの人数に変化がある。食の大切さや農業体験など、実演においてパイプ役ができれば。
【委員 F】
再編整備について、県はＲ５年以降の１年生の生徒数 100 人が目安と示されているが、仮にＲ５年度で 100 人を切ったがＲ６年で 100 人を上回れば、再編整備の対象から逃れられるのか。
【高校】
どちらかで回避できれば再編整備からはずれると解釈している。
【委員 F】
これだけ歴史があり地域と密接した学校であるのに、県から見ると 100 人を切っただけで再編整備の対象になるのは残念なことだ。ただ、100 人さえ切らなければいいと捉えるならば話は別である。もうあまり時間的余裕はないが、現状がそんなに大きく下回っているわけではない。各コースが今まで培ってきていることや専門的にやってきていることを外にどう伝えるかだ。内部の人は知っているが外部の人は知らない。SNS の力はすごい。かなりの中学生はスマートフォンを持っており、Facebook よりも Twitter や Instagram を見ている。前回フォロワー数を上げようという話も出ていたが、生徒を巻き込んでフォロワーを増やしたり、中学生に向けて専門的な学びを発信したりするのは、時間がない中でスピーディーにできることだ。
また、津山圏域・美作圏域の民間企業とつながって取組をする。民間企業も「勝高の生徒がやっている」「勝高ブランドである」というのが地域からの信頼度が高まるので、つながりがほしい。学校と民間をうまくつなげると、地域への浸透性が出てくるのでは。
【委員 G】
専門的な学びをしているが、就職先としては専門性を活かしたところに行くことが多いのか。
【学校】
令和 3 年度については、農林業関連産業就職者 14 名と進学者 5 名、自動車関連産業就職者 5 名と進学者 1 名である。農業に関する求人はほとんど来ないのが現状である。受け入れ先がないのが課題である。
【委員 G】
専門的な学びを活かせる就職先を探しアピールしていくと、保護者も安心するのでは。専門的なことを学んだ後にこんなところに行ける、というのがあれば魅力になると思う。
【学校】
求人の件数は県内だけでも 400 件ほどありかなり多いが、そのうちの 150 数件が製造

業である。農業関連は林業関連も含めて 6 件のみというのが現状である。実績も、就職者の 6 割が製造業で学びのコースとは関係ない。地域に工業団地が多く恵まれていることも背景となっており、ニーズも大きく生徒にも人気が高い。就職者の 2 割が勝央工業団地への就職である。学びとリンクしていないのが課題であるが、「就職できる」ということはアピールできる。

【議長】

生徒を募集して入れることは大事だが、出口の部分は生徒にとって一番の魅力となる。

【委員 F】

今年度の各コース在籍数を見ると、森林コースがＶ字回復を見せているが、何か特別なことをしたのか。何か理由があるはずである。それを他コースでも参考にしていけばよいのではないか。

中学生に向けてのアプローチだが、オープンスクールや文化祭で、高校生が企業と連携してワークショップを行うなど、高校生・先生と中学生が直接ふれあえる機会があるとよい。

勝央町の農家は現在、ぶどうや栗の栽培に力を入れている。高校の教育が勝央町の特産品の農業に直結していない。難しいと思うが、新規就農者が育成できるカリキュラムがあると、勝央町にとってもよい。

【委員 G 】

私はみなさんの話を聞いて動く立場なので、話を聞いてやりたいことがたくさんあった。勝央町の特色は農業ということを強く推すべきだと考えている。農業を中心につながることが多くある。SNS を作成する立場で農業の話題も多く取り上げるが、子どもやその保護者からの視点で考えると、昔ながらの農業はしんどいイメージがある。（農業が）効率的に、楽にできる部分を出していければいいなと考えている。

生徒はこの１年生から Chromebook を１人１台持っていて授業で使っている。Chromebook の活用が、各コースの学びと連動していってほしい。このような端末をうまく使いこなして、効率的に経営やマーケティングの勉強をしていってほしい。ビジネスコースだけが少し浮いているように感じる。各コースの連携が必要だと考える。

【委員 H】

１点目は、先生方のほうから授業時間数が増えても今のまま５コースでやっていきたいとの話が出たとのこと、そのことに敬意を表したい。教育方法として、外部人材の活用があってもいいのでは。地域の人材を使って地域の産業を学ばせることにより、学校での学びをどう活かせるかを考えたり、仕事に魅力を感じたりするきっかけになるので、そういったシステムづくりも必要ではないかと思う。

２点目は、卒業後の進路について、高い目標を持って学ぶ意識づくり、集団づくりが必要である。

３点目は、SNS などの外への発信は重要であるので、外部発信をしてくださっている方

へ、学校だけでなく勝央町からも支援をお願いしたい。

【委員Ｉ】

勝間田高校は地域によっては通学困難である。英田地区からは、今は（NPO 法人が）何とかバスを動かしているが、公共交通がない。新聞でも目にするが、姫新線が赤字でなくなる危機もあると聞く。姫新線がなくなると津山から生徒は来られなくなる。策を考えることが重要だと考える。

どこに行こうかと悩んでいる中学生には、各中学校で行われる学校説明会が学校選びのポイントとなる。営業努力が必要で、プレゼン能力が高くないといけない。学校紹介の話がうまくひきつけられると、中学生や保護者も魅力的に感じる。

転退学者の数について、多いと感じる。これを中学生の保護者が見ると、入学しても何かあったらすぐやめることになるのではと思う。救い上げることができなかったのか。

勝間田高校がなくなると他に行き場がなくなる生徒もいる。卒業後、企業がどういった人材を求めているか、どんな資格を求めているかを企業側と連携し、生徒を育てていってほしい。農業の関係でも、「南高梅」のように「勝間田ブランド」ができれば道が開けるのでは。

【議長】

私の立場では勝間田高校をなくすわけにはいかないという思いで頑張っていきたい。

学校やコース（系列）の魅力を掘り起こして魅力をＰＲすればよいと思うが、それだけを打ち出したのでは時間的に間に合わないのでは。現時点の課題は、令和５年、６年に１年生の生徒数が１００人を割らないことである。そのための１つは、いかに地域や中学生・保護者に向けて教育活動を発信し、ＰＲしていくことが重要である。その上で、学びの内容や目指す姿を示していくことの２本立てが必要だと考える。全職員が共通認識で取り組んでいってほしい。

それぞれのコースで、課題・テーマを持って継続的に研究に取り組んでいってほしい。民間企業と連携する方策もあると思う。

１人でも２人でも「勝間田高校だから行きたい」生徒が増えればいいと思う。

有意義な会となり貴重な意見をいただけた。これを元に学校のほうで活かしていってほしい。

９　その他

（１）　第２回学校運営協議会について　１１月～１２月上旬で調整

（２）　その他